

建築構造設計者のスキルアップ教育に関する調査研究報告書

－調査概要－

本報告書は公益財団法人建築技術教育普及センター（JAEIC）からの委託を受けて、一般社団法人日本建築構造技術者協会（JSCA）が建築構造設計者のスキルアップ教育に関する調査研究を行った成果をまとめたものである。

1. 調査研究の目的

建築物の構造設計を行う際に、建築構造設計者のうち特に若手の建築構造設計者が習得すべき知識及び、知識不足、経験不足による構造計算の間違えやすい点の調査を行うとともに、その対策について検討を行い、その結果を踏まえ、若手の構造設計者に必要な教材について検討を行う。

また、必要な教材や、どのような学習方法が適しているかを調査し、今後のあるべき若手建築構造設計者のスキルアップ教育について提案する。

2. 調査研究の実施体制

本業務に関しては JAEIC との協議を通して、比較的若手の建築構造設計者を対象とした鉄筋コンクリート造、鉄骨造、基礎構造及び、構造計算プログラムに関するスキルアップを具体的な調査研究対象としたことから、JSCA 技術委員会を担当委員会と定め、同委員会における議論を経て、個別具体の検討及び調査は JSCA 技術委員会傘下の RC 系部会（委員数 17 名）、金属系部会（委員数 15 名）、基礎地盤系部会（委員数 15 名）及び、プログラム部会（委員数 23 名）で行った。

3. 調査研究の結論

若手の建築構造設計者の知識、スキルについては OJT（On the Job Training）によること、すなわち、経験者からの適切なアドバイスを受けつつ経験を積むことを通して身に付けていくことが最も着実な方法である。しかしながら何らかの事情でそれが果たせない、ないしは適切な教材を基に自ら学びたいという意欲を持った若手の構造設計者も存在すると考えられる。

これらの者に対しては、設計の流れの中に注意すべき事項等を盛り込んだ教材が OJT を補強する教材として有効である。この教材に該当する出版物は例えば JSCA が編集し、オーム社から発刊されている「JSCA 版 RC 建築構造の設計」及び「JSCA 版 S 建築構造の設計」等、各種市販されており、自ら学ぶ意欲のある若手構造設計者はそれらの出版物を熟読することで、効果的な OJT 習得の助けとなる。

一方、出版物によらず、ポイントを絞った講習会等により、OJT の補強を行うことも考えられる。このことから報告書末尾には、講習会資料としてそのまま印刷すれば教材にもなる形の PPT（パワーポイント）を作成し、参考に供した。将来的には、これらの PPT に音声を載せ、動画化した教材として WEB 教育素材とすることも考えられる。

以上